

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美大の創造力を、 あなたの事業に お役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などとの連携活動を推進しています。

POLICY 理 念

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

SYSTEM 活動体制

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

研究制度

共同研究

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

受託研究

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

研究体制

プロジェクト型（課外活動型）

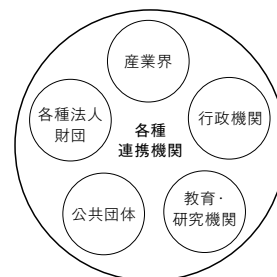
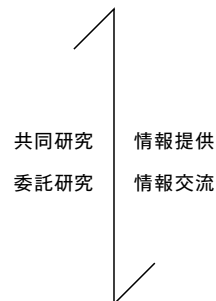
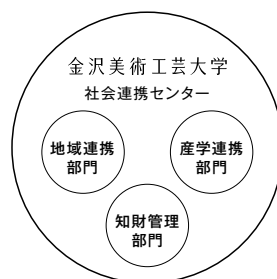
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

プロフェSSIONAL型

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

NETWORK 社会連携

他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



FLOW 活動の流れ

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよい成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

■商品の企画・開発にデザインを利用したい

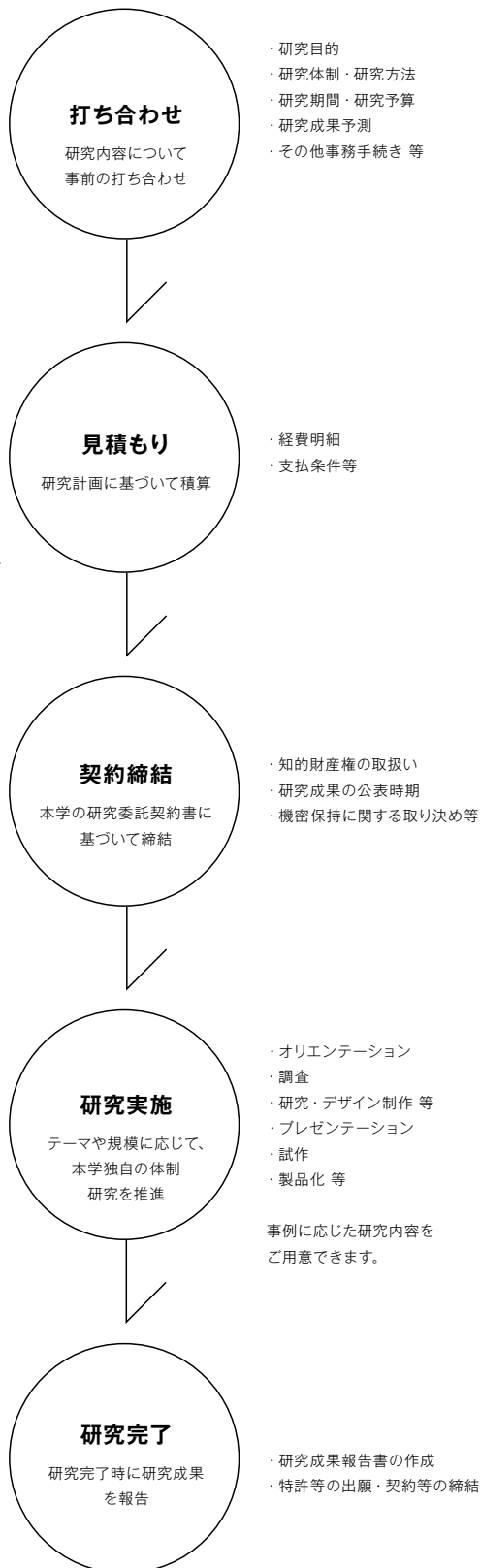
■CI・ブランド開発にデザインを活用したい

■マーケティングにデザインを活用したい

■店舗・施設の開発にデザインを活用したい

■伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい

■美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



FIELD 活動領域

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

美術系

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

デザイン系

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

工芸系

陶磁 / 漆・木工 / 鋳金・彫鍛金 / 染・織

専門領域分野

ヴィジュアルコミュニケーション
広告デザイン
サインデザイン
映像・メディアデザイン
Web デザイン
パッケージデザイン
ユニバーサルデザイン
インターフェイスデザイン
情報機器デザイン
輸送機器デザイン
家具デザイン
生活関連用品デザイン
都市計画デザイン
建築デザイン
インテリアデザイン
ディスプレイデザイン
ランドスケープデザイン
ファッションデザイン
テキスタイルデザイン
陶芸
漆芸
木工
彫鍛金
鋳金
染織
モニュメント
壁画
材料・修復

過去 7 年間の社会連携研究数

年 度	総 数	地域連携事業	産学連携事業	連携協定事業
2012 (H24)	31	17	14	
2013 (H25)	49	32	17	
2014 (H26)	46	27	19	
2015 (H27)	34	18	16	
2016 (H28)	34	16	11	7
2017 (H29)	33	11	16	6
2018 (H30)	32	21	8	3
計	259	142	101	16

※報告書掲載数は複数年に渡る事業も含む。



マッチングハブ金沢 2018 出展
北陸先端科学技術大学院大学・産学官連携本部
2018 年 11 月 2 日 ANA クラウンプラザホテル金沢



企業向け大学等シーズ発表会 参加
金沢市産学連携事業運営委員会
2018 年 11 月 28 日 IT ビジネスプラザ武蔵

107 >> 127

107	金沢マラソン 2018 完走メダルデザイン制作	6
108	かなざわ時計	7
109	歩けるまちアートベンチプロジェクト「かなざわ道の船」 ～ベンチのデザイン制作と情報発信事業～	8
110	みんなの思い出黒板アート	9
111	まちかど思い出ピアノのデザイン制作	10
112	「金沢テクノパーク」企業立地ガイドのデザイン	11
113	金沢駅西地下広場庭園リニューアル	12
114	WRO Japan 2018 in Kanazawa 参加記念メダルデザイン制作	13
115	金沢の海の幸 PR 映像「海鮮金沢」映像制作	14
116	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 24 回 光の回廊シリーズ (その 10)	15
117	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 25 回 第 7 回ホスピタルギャラリー	16
118	かなざわエコフェスタ 2018	17
119	ホスピタリティ・ライブラリープロジェクト 図書館で過ごす時間を豊かにする椅子Ⅲ ～金沢海みらい図書館を舞台に考察～	18
120	JAPAN TENT T シャツ・広報物デザイン	19
121	犀桜小学校校章デザインとその活用計画	20
122	犀川小学校校章デザインとその活用計画	21
123	金沢箔を用いたパネル等の制作及び SNS による情報発信の提案	22
124	子ども専用相談ダイヤルカードのデザイン	23
125	社会福祉法人 希望が丘での陶芸指導および薪窯焼成	24
126	石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」	25
127	外国人旅行者銭湯体験推進事業	26

107

金沢マラソン 2018
完走メダルデザイン制作

金沢マラソンは2015年から開催され、本年度で4回目。金沢をまるごと「走る!」をキャッチフレーズに、金沢の魅力が満喫できるフルマラソンとして大変人気の高い大会となっている。また、出走時間が7時間と長いため、完走率も非常に高い(2018年は97%)ことも特長となっている。

2018年大会は定員13,000人に対し、全国各地から3万人以上の応募があり、倍率2.5倍の抽選となった。

その完走者に贈る完走メダルのデザインを、初回大会から続けて提案させていただき、ランナーからも大変好評となっている。完走メダルには、金沢らしいオリジナリティあるデザインが求められ、今回も過去3大会に並ぶクオリティの高いメダルデザインが提案された。最終選考されたのは、川村美月さんの、水引をモチーフにした作品で、金沢ならではの上品さに加え、気運向上などのコンセプトが込められており、金沢らしい質の高い仕上がりとなった。メダルは完走した12,654人に手渡され、大変好評であった。



オリエンテーション



アイデア発表会

[委託者]

金沢市 市民局 マラソン推進課

[期間]

2018年2月～10月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

内海 春佳	製品デザイン専攻3年
乙部 那未	製品デザイン専攻3年
川村 美月	製品デザイン専攻3年
高田 えみ	製品デザイン専攻3年
竹本 頌悟	製品デザイン専攻3年
田中 夢大	製品デザイン専攻3年
長谷川 皓士	製品デザイン専攻3年
濱野 青空	製品デザイン専攻3年
番匠 香澄	製品デザイン専攻3年
松本 姫佳	製品デザイン専攻3年

[開発日程]

2018年

2月13日	オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明
4月24日	アイデアミーティング
4月27日	アイデア発表会
5月11日	アイデア選考 5案に絞る
6月19日	モックアップモデル提出
6月22日	最終選考案決定
7月2日	図面データ提出、CMF指示
7月20日	市長から感謝状拝受
8月～9月	量産デザインフォロー
9月14日	市長への試作品完成報告
10月28日	金沢マラソン大会開催



市長からの感謝状

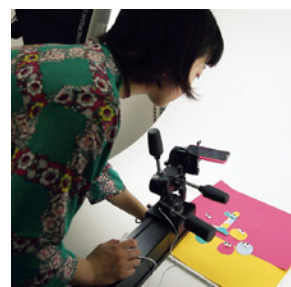
デザインを手がけた川村美月さん
(市長への完成報告会)

108

かなざわ時計

金沢市の市役所前の大型サイネージにて、学生が制作した時刻をお知らせする映像が毎時きっかりに流れる。

映像は 20 秒ほどで、20 パターン（学生の人数分）が繰り返し放映される。映像は必ず開始 10 秒で時刻を表す数字が出現するようにデザインされている。



[委託者]

金沢市 広報広聴課

[期間]

2018 年 4 月 — 12 月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

下浜 臨太郎 講師 デザイン科視覚デザイン専攻

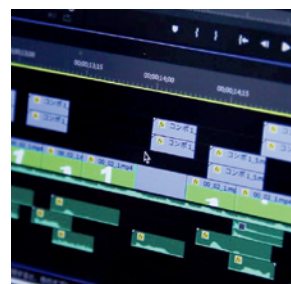
[参加学生]

乾 眞琳 視覚デザイン専攻 2 年
 岡崎 慧 視覚デザイン専攻 2 年
 奥野 凜 視覚デザイン専攻 2 年
 喜多 美友 視覚デザイン専攻 2 年
 桐本 清花 視覚デザイン専攻 2 年
 日下部 亜季 視覚デザイン専攻 2 年
 栗本 恵里 視覚デザイン専攻 2 年
 小林 寛治 視覚デザイン専攻 2 年
 佐藤 菜七星 視覚デザイン専攻 2 年
 澤口 有里 視覚デザイン専攻 2 年
 清水 一政 視覚デザイン専攻 2 年
 東海林 充希 視覚デザイン専攻 2 年
 砂川 友希 視覚デザイン専攻 2 年
 竹村 美紅 視覚デザイン専攻 2 年
 中条 紗英子 視覚デザイン専攻 2 年
 中多 礼美 視覚デザイン専攻 2 年
 原 夏恋 視覚デザイン専攻 2 年
 本田 達也 視覚デザイン専攻 2 年
 芳田 実霞 視覚デザイン専攻 2 年
 渡辺 菜緒 視覚デザイン専攻 2 年

[開発日程]

2018 年

4 月 12 日～ 6 月 10 日 ワークショップ
 6 月 10 日～ 12 月 31 日 放映期間



109

歩けるまちアートベンチプロジェクト 「かなざわ道の船」 ～ベンチのデザイン制作と情報発信事業～



上：安江丸 左下：武蔵丸 右下：尾山丸

【委託者】	
金沢市歩ける環境推進課 金沢市交通政策課	
【期間】	
2018年4月～11月	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
根来 貴成 准教授	デザイン科製品デザイン専攻
村中 稔 教授	デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】	
都筑 亮志	製品デザイン専攻 4年
村松 圭介	製品デザイン専攻 4年
渡邊 奈々重	大学院修士課程デザイン専攻 製品デザインコース 1年
【参加企業】	
株式会社 山岸製作所	ベンチ設計、 スケジュール監修担当
株式会社 中東	ベンチ本体制作担当
有限会社 前田石材	ベンチ脚制作担当
株式会社 ビルドランド	ベンチ本体塗装担当
株式会社 エイブルコンピュータ	スマートフォンサイト実装担当

魅力的なデザインのベンチを金沢市の都心軸に設置することで、歩いて観光する来街者や市民の回遊性向上を図るとともに、都心軸沿線における憩いと賑わいの空間を創出する目的で設置。金沢駅から街中へ多くの来街者を誘うシンボリックな役割を果たすとともに、新幹線開業による新たなステージへの船出に期待を込め、かつて城下町に賑わいや恵みをもたらした北前船に見立てたデザインとした。また、駅前の鼓門との関連性を持たせ、色調や周囲の景観にも調和するよう配慮した。

材料には雨や雪にも強い県産材の、能登ヒバ（アテ）や戸室石を使用した。これらは、北前船の船体や築城材料としても使用されており、ベンチ本体には反りを防ぐために建築材料にも使われている大断面集成材を使用した。表面処理にも耐候性の高い保護塗料を使用した。さらに、ベンチに設けたQRコードをスマートフォンで読み取り、その場でしか見られない観光情報や歴史を楽しみながら街中を歩いて巡ることができる。本プロジェクトは、各専門企業と金沢市と本学の産官学が一体となって取り組めたため、強い推進力を発揮することができた。



スマートフォンサイト紹介ページ QRコード

①此花丸②別院丸③武蔵丸④安江丸⑤近江丸
⑥尾山丸⑦香林坊丸アトリオ⑧-1香林坊丸 ラ
モーダ2400 ⑧-2香林坊丸 ラモーダ4800

1/1 プロトタイプ試作デザイン検討

【開発日程】	
2018年	
4月20日	オリエンテーション
6月11日	金沢市長、関係者にプレゼンテーション
7月12日	スマートフォンサイト打ち合わせ
7月17日、8月10日	設置現場にて、1/1プロトタイプ試作デザイン検討
9月4日	スマートフォンサイト検討
8月10日	1/1現物試作デザイン検討
9月19日、20日	ベンチ設置、スマートフォンサイト開設(8箇所中7箇所)
9月19日	記者発表
11月8日	テレビ石川番組取材(11/17放映)
11月28日	ベンチ設置、スマートフォンサイト開設(残り1箇所)



本体の制作風景



ベンチのQRコード部分とスマートフォンサイト

110

みんなの思い出黑板アート



油画専攻のプレゼンの様子



日本画専攻のプレゼンの様子

【委託者】

金沢市 文化スポーツ局文化政策課
金沢市 金沢マラソン推進課

【期間】

2018年8月～9月
「金沢の四季」 油画専攻
2018年9月
「海の中の宇宙（そら）」 日本画専攻
2018年10月
「歴史の街・金沢をアートで駆け巡る」
彫刻専攻
2018年12月
「二本の川のある町（金沢）」
金沢美大・金沢桜丘高校合作

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻
荒木 恵信 准教授 美術科日本画専攻
岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】

榮長 義雄 修士課程絵画専攻 油画コース2年
千川 岳志 博士後期課程美術工芸専攻 油画分野2年
伊藤 真里奈 油画専攻3年
戸田 伸英 修士課程絵画専攻 日本画コース1年
大山 和輝 修士課程絵画専攻 日本画コース1年
中田 日菜子 修士課程絵画専攻 日本画コース1年
中村 優希 修士課程絵画専攻 日本画コース1年
塩崎 泰介 修士課程絵画専攻 日本画コース2年

高橋 未優 彫刻専攻3年
島居 奈菜 彫刻専攻3年
中嶋 彩乃 彫刻専攻3年
大槻 直也 彫刻専攻3年
小岩井 琳太郎 彫刻専攻3年
林 穂南 彫刻専攻3年
西森 龍昇 彫刻専攻4年
西川 明宜 彫刻専攻4年
林 ゆり子 彫刻専攻4年

本プロジェクトは、黑板アートの公開制作及び完成時のプレゼンテーション、展示、黑板に描かれた作品を消して締めくくるまでの一連の美術活動によって、金沢の活性化に貢献するものである。閉校になった材木町小学校の黑板を3面横並びに、金沢駅地下広場に設置し、そこで油画専攻グループ、日本画専攻グループ、彫刻専攻グループ、金沢美大と金沢桜丘高校との合同グループの4組が、それぞれの時期に実施した。

黑板による画面の大きさは縦1.2m×横10.8mである。そこに描かれた主題は、金沢市の歴史や歳時、文化にまつわる人物像や観光名所、特産物などでありまた、北陸新幹線をはじめとして時事に関するものもあった。市民の皆様には地元への愛着と再発見を、観光に訪れた方々には金沢の魅力とともに学生たちの姿から元気な頼もしさも届けられた。

材木町小学校の卒業生、本学学生、桜丘高校の生徒、作品鑑賞にお越しいただいた方々など大勢の思い出が交差するプロジェクトであった。

【開発日程】

2018年
5月31日 学内にてプロジェクト内容
確認打ち合わせ
8月25日～31日 制作（油画専攻）
9月1日～7日 展示
9月2日 プレゼンテーション
9月10日～16日 制作（日本画専攻）
9月17日～23日 展示
9月17日 プレゼンテーション
10月13日～21日 制作（彫刻専攻）
10月20日 プレゼンテーション
10月22日～28日 展示
10月31日 美大・桜丘高校合同会議
12月4日～10日 制作（金沢美大・桜丘高校合作）
12月11日～18日 展示
12月15日 プレゼンテーション



彫刻専攻のプレゼンの様子



美大・桜丘高校のプレゼンの様子

111

まちかど思い出ピアノのデザイン制作



光の回廊

[委託者]

金沢市 文化政策課

[期間]

2018年6月～9月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]

河崎 ひかり 視覚デザイン専攻3年

梅野 恵 視覚デザイン専攻3年

大賀 愛子 視覚デザイン専攻3年

[開発日程]

2018年

6月22日 オリエンテーション

6月25日～ デザイン案検討

7月25日 ピアノ採寸、デザイン案
中間チェック

8月8日 デザイン案決定

8月9日～ 最終デザイン案修正作業

9月11日 思い出ピアノ/施工

9月12日 思い出ピアノ/完成セレモニー

昨年、制作した片町きらら広場に音符に見立てた大小の花びらを描いた1台、金沢駅もてなしドーム地下広場には、伝統工芸の水引と五線譜を組合わせた1台を設置している。今年は金沢駅西口広場に新しく設置することになり、デザイン制作依頼があった。

視覚デザイン専攻3年生3名が参加し、昨年に引き続き、河崎さんのデザインが採用された。広場に新しく設置されるアートのイメージをふまえて、植物をモチーフにデザインを制作し、表現されている花びらが「メヌエット」のメロディになっているのが特徴。

お近くにお立ち寄りの際は、是非、ご覧ください。



オープニングライブ



オープニングライブ



デザインを担当した河崎ひかりさん



112

「金沢テクノパーク」
企業立地ガイドのデザイン

金沢テクノパークとは、高度技術産業、地域拠点産業および試験研究開発機関など付加価値の高い都市型産業にふさわしい創造拠点として、金沢市が整備した工業エリアである。北陸新幹線開業の影響もあって、分譲地も残すところ、数区画のみとなり、さらなる企業誘致に向けて、金沢美術工芸大学のデザイン力を活かし、多くの人に手に取ってもらえるよう、わかりやすいパンフレットの制作を目指した。

企業誘致という学生にとって馴染みのない内容に、まずは現地を訪ね、金沢テクノパークへの理解を深めた。実作業では、企画、編集、取材、イラスト制作、撮影など、メンバー間で話し合っそれぞれ役割を分担しながら、手探りの中、作業を進めていった。

3月末に実際に印刷されたパンフレットが完成し、現在は金沢市のプレゼンツールとして活用されている。



現地に赴き、実際にテクノパークで操作している企業の方々に生の声を聞いた



ミーティングの様子。自分たちが考えたアイデアを伝え、丁寧に確認しながら進めた



美大生であることを活かし、一つひとつ手描きでイラストを仕上げた



実物大の見本紙を何度も制作し、手に持った時の感触確かめた

【委託者】	
金沢市 企業立地課	
【期間】	
2018年4月—2019年3月	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
坂野 徹 准教授	デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】		
石田 文音	視覚デザイン専攻3年	
大賀 愛子	視覚デザイン専攻3年	
河崎 ひかり	視覚デザイン専攻3年	
兒島 祐衣	視覚デザイン専攻3年	
佐藤 桃子	視覚デザイン専攻3年	
塩木 亜弥	視覚デザイン専攻3年	
水野 理沙	視覚デザイン専攻3年	
若尾 陸利	視覚デザイン専攻3年	
三好 冬悟	視覚デザイン専攻3年	
占部 愛英	視覚デザイン専攻3年	
佐々木 琴音	視覚デザイン専攻3年	
坪田 成未	視覚デザイン専攻3年	

【開発日程】	
2018年	
6月5日	現地見学
7月24日	第1回ミーティング
10月16日	第2回ミーティング
12月7日	第3回ミーティング
12月19日	第4回ミーティング
2019年	
1月30日	第5回ミーティング
3月7日	最終データ確認
3月9日	印刷入稿
3月17日	納品

113

金沢駅西地下広場庭園リニューアル

「金沢駅西口地下広場庭園」の再整備として、庭園全体のデザインと柱部分に中国徳化窯（粘花技法）を応用した九谷焼の取り付けを行い、「やまほたるの庭」と命名した。

庭園は金沢市の象徴的な山である医王山をモチーフに蛍が飛び交う情景を、医王山に自生する特徴的な植物や、青戸室石、九谷焼、照明等多彩な素材で再構築した環境芸術として表現した。

タイトルにもなっている蛍は光ファイバーで再現し、柱に取り付けた九谷焼の背後には発光ダイオード（LED）を設置することで、柱の中で医王山の植生を浮かび上がらせることで夜間も楽しめる庭園にすると共に、経年変化を念頭に竹の形態に加工された戸室石が、その吸水性の良さから次第に苔生すことも予想されている。

植栽はホザキツリガネツツジ、カライトソウ、ヒメシャガ、ヒサカキ、シダなど実際の植生から行われている。

子供たちには図鑑のように医王山の植物や昆虫を探し出す楽しみを持ってもらいたいと考えている。



[委託者]

金沢市 クラフト政策推進課

[期間]

2018年5月～2019年3月

[研究体制]

プロフェッショナル型

[担当教員]

高橋 治希 准教授 美術科油画専攻

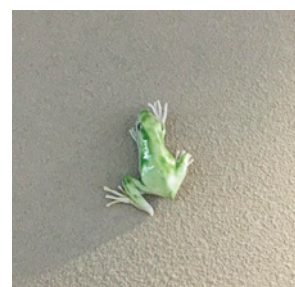
[開発日程]

2018年

- 5月 関係者打ち合わせ
- 5月～6月 ラフプランの作成
- 7月 プランの決定
石材、造園、照明業者を含めた打ち合わせ
戸室山にて石材の選定
- 8月 テストピース作成
- 10月末 制作開始
- 11月 教員研究発表展にてドローイング及び制作経過の展示
- 12月 石材（石組み制作開始）
照明（サンプル検討開始）

2019年

- 2月 柱部分吹き付け作業、石組み設置
- 3月上旬 柱部分九谷焼作品設置、植生作業、照明（柱部分・蛍部分設置）完成



114

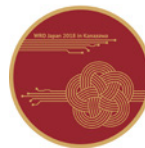
WRO Japan 2018 in Kanazawa
参加記念メダルデザイン制作

第15回ワールドロボットオリンピックジャパン2018の決勝大会が9月9日に金沢市医王山スポーツセンターで開催されることになった。初の地方開催ということもあり、金沢市産業政策課では、全国各地の予選会を勝ち進み選抜された約460名の小中高生参加者全員に歓迎の意を込めて、金沢らしい記念のメダルを配りたいという意向から、メダルデザインでは実績ある金沢美大製品デザイン専攻にデザインの依頼があった。

デザイン条件は金沢らしさとロボット競技をイメージしたデザインコンセプトで、カテゴリー別に3色展開ができること。

製品デザイン専攻4年の16名がアイディアを提案した中から、西村正之さんの、電気回路がつながる様子と複数の線が結ばれて形になる水引を組み合わせて金沢らしさとロボット競技を表現すると同時にチームの結束力を表した作品が採用された。

レギュラーエキスパート
勝利の赤（紅組）



レギュラーミドル
優秀の青（藍組）



オープン
知性の緑（緑組）



【委託者】	
金沢市 経済局 産業政策課	
【期間】	
2018年6月～9月	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
浅野 隆 教授	デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】		
大石 まなみ	製品デザイン専攻4年	
大橋 康平	製品デザイン専攻4年	
小島 弘嵩	製品デザイン専攻4年	
都筑 亮志	製品デザイン専攻4年	
當宮 楽捺	製品デザイン専攻4年	
西村 正之	製品デザイン専攻4年	
橋川 裕貴	製品デザイン専攻4年	
林恒 太郎	製品デザイン専攻4年	
福田 理紗	製品デザイン専攻4年	
藤川 紘生	製品デザイン専攻4年	
北條 英	製品デザイン専攻4年	
堀 美末湖	製品デザイン専攻4年	
松村 圭介	製品デザイン専攻4年	
森 琴音	製品デザイン専攻4年	
山村 有史	製品デザイン専攻4年	
吉戸 妙織	製品デザイン専攻4年	

【開催日程】	
2018年	
6月7日	オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明
6月18日	アイディアミーティング
6月22日	アイディア提出
6月29日	最終選考案決定
7月2日	図面データ提出、CMF指示
9月5日	試作品完成、市長・副市長への報告
9月9日	決勝大会開催



115

金沢の海の幸 PR 映像
「海鮮金沢」映像制作

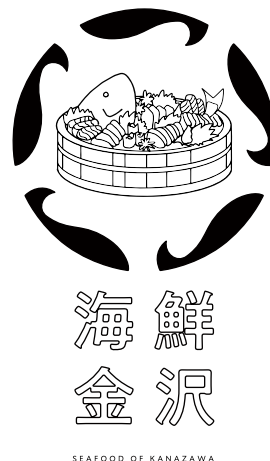
金沢の豊富な海の幸の魅力を発信するため、金沢市農林水産振興課より、若い学生目線で「シズル感」あふれる PR 映像の制作を依頼された。タイトルを「海鮮金沢」とし、全 5 本のシリーズ作品を企画から撮影、編集まで対応した。

金沢市内を舞台に企画を検討し、完成した映像は「友達編」では市内居酒屋、「デート編」は金沢港甘エビまつり会場、「親子編」は市内の回転寿司店、「男旅編」は近江町カニまつりを撮影場所に設定し、どの映像でも海の幸を食べる様子をイラストや文字も交えながら楽しく伝えており、何気ない日常を切り取ったようなリアルな映像を映し、思わず海の幸を食べたくなる作品になっている。

現在、金沢市公式 YouTube チャンネルで公開中。



友達編



[委託者]

金沢市 農林水産振興課

[期間]

2018 年 6 月 — 2019 年 3 月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]

喜多 美友 視覚デザイン専攻 2 年
 桐本 清花 視覚デザイン専攻 2 年
 清水 一政 視覚デザイン専攻 2 年
 中多 礼美 視覚デザイン専攻 2 年
 芳田 美霞 視覚デザイン専攻 2 年

[撮影協力]

いたる本店
 近江町海鮮丼家ひら井
 金沢まいもん寿司本店
 JF いしかわ
 近江町市場

[開発日程]

2018 年

6 月 26 日 オリエンテーション
 7 月 19 日 「友達編」撮影～編集
 9 月 8 日 「デート編」撮影～編集
 10 月 25 日 「親子編」撮影～編集
 11 月 10 日 「男旅編」撮影～編集
 12 月 26 日 「打ち上げ編」撮影～編集

2019 年

3 月 5 日 「総集編」編集完了
 3 月 25 日 DVD 最終納品



デート編



親子編



男旅編



打ち上げ編

116

ホスピタリティアート・プロジェクト 第24回
光の回廊シリーズ(その10)

このプロジェクトは、金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。第24回目となる今年度の展示は、「四季のかがやき」と題し実施された。病院1階待合ホール大ガラスに患者、医療者、学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、夏の恒例行事として病院関係者および周辺地域に受け入れられている。今年度はフランス・ナンシー市からのインターンシップ生2名が加わり、学生や市民との交流がみられた。このプロジェクトは医療環境に彩りの空間を現出させ、通院・入院患者、医療関係者の日常に癒しの効果を与えているが、重要なことは、ワークショップにより患者、医療関係者、協力学生が同じ視点で時間を共有することで現出するコミュニケーションの有り様である。

参加学生が準備から撤収まで労を惜みず献身的に作業する姿を見て、この活動を美大の美術教育に還元させる必要を感じている。



大学での原寸大下絵制作



セロハンパーツ制作

【委託者】
金沢市立病院
【期間】
ワークショップ
2018年8月21日 13:00—16:00
館内展示
2018年8月21日—9月13日
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
三浦 賢治 教授 美術科油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター
岩崎 純 准教授 美術科油画専攻
横川 善正 名誉教授 金沢市立病院 ホスピタリティアート・プロジェクト顧問

【参加学生】
石田 彩夏 油画専攻2年
犬飼 好美 油画専攻2年
遠矢 実樹 油画専攻2年
橋本 由衣 油画専攻2年
山田 美智子 油画専攻2年
沖館 佳奈 日本画専攻2年
秋山 雅貴 油画専攻3年
伊藤 真里奈 油画専攻3年
塚原 由子 油画専攻3年
南 唯乃 油画専攻3年
棚部 芹 油画専攻4年
塚田 華都緋 油画専攻4年
仁木 このみ 油画専攻4年
宮下 沙友理 芸術学専攻4年
古中 雄二 修士課程絵画専攻油画1年
内田 望美 博士後期課程油画1年
米田 貴雅 博士後期課程油画2年
小倉 はなえ フランス・ナンシー市 インターンシップ生
ポール・ヴァン・ヴォンデル フランス・ナンシー市 インターンシップ生

【開発日程】
2018年
7月20日 第1回企画会議(テーマ会議)
7月23日 材料確認、発注
8月10日 「HAP Tシャツ」完成、図案決定
8月13日~17日 大学での制作、下準備 (ワークショップ材料・セロファンパーツ)
8月中旬 市の広報にお知らせ (市立病院発信)
8月18日 脚立、足場等の資材を病院に搬入、設置
8月19日 9:45~17:00 市立病院に集合、ガラスシート張り替え、カラーセロファンによる大ガラスの装飾開始
8月20日 9:30~17:00 ステンドグラス制作
8月21日 9:30~17:00 ステンドグラス制作 13:00~16:00 ワークショップを経て完成
9月13日 15:00~撤収 (セロファン剥がし、資材搬出)



市立病院でのステンドグラス制作



患者さんとワークショップ

117

ホスピタリティアート・プロジェクト 第25回
第7回ホスピタルギャラリー

平成 21 年度より金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携のもと取り組んできたホスピタリティアート・プロジェクト (HAP) の一環として、病院がより市民の方々に身近な施設となるための「市民がつくる安らぎの医療」をメインテーマに、平成 24 年度よりホスピタルギャラリーを開催している。第 7 回となる本展においても、市民、患者、看護師、登録医、介護施設などから募り、作品募集テーマ「安らぎのいろ・かたち・味わい」の趣旨に賛同して集まった絵画、彫刻、書、手芸、工芸等の 175 点の作品群によって、病院の待合ホールには 3 日間限定の美術館とも言える展示空間が創出された。最終日には市民アドバイザーや出品者によるギャラリートークも行われ、中秋の市立病院待合ホールには和やかなコミュニケーション空間が紡ぎ出された。

市の中心から離れた場所にありながら、会期中 1,000 人を超える来場者を数え、このギャラリーが地域社会に受け入れられていることを実感している。美大、行政、医師、看護師が一体となった展覧会の運営は、全国的に見ても希な取り組みであると言える。



会場風景



会場風景



会場風景



ギャラリートーク

金沢市立病院スタッフ
ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー

院長	高田 重男
副院長	横川 由起子
小児科	瀬野 晶子
神経内科長	杉山 有
循環器内科	小見 亘
消化器内科	辻 宏和
看護部副部長	中町 麻紀子
看護部	坂尻 裕子 合田 祐未 松田 留奈 諸橋 睦 高橋 亜美 瀬戸 莉奈 市川 和恵 千原 麻衣
放射線室副室長	安土 佳宏
臨床検査室	大島 有加
リハビリテーション室	中島 孝
栄養管理室	掛場 清美 榎原 菫子
事務局次長	割田 隆之
事務局	今村 学 南川 美代子 大和 裕紀

市民アドバイザー

富地 晃裕 野川 勝紀

ギャラリートーク担当

駒井 順子 石川県済生会金沢病院
ホスピタルアート・コーディネーター

【開発日程】

2018 年

4月27日	第1回ホスピタリティアートプロジェクト合同会議
6月27日	第2回ホスピタリティアートプロジェクト合同会議
7月2日	ポスター、作品募集要項、DM 入稿
7月9日	ポスター、DM、作品募集要項納品
7月13日～8月17日	作品募集、申し込み
8月9日	展覧会フライヤー入荷
9月3日～14日	作品搬入、受付
9月12日	ギャラリートーク開催案内(新聞広報、記事提供、FB)
9月14日	設営、展示作業、展覧会日録入荷
9月15日～17日	ギャラリートーク開催
9月17日	撤収、作品返却

【委託者】

金沢市立病院

【期間】

ギャラリー開催

2018年9月15日～17日

9:30～17:00

ギャラリートーク

9月18日 15:30～17:00

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻
ホスピタリティアート・コーディネーター

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

横川 善正 名誉教授
金沢市立病院
ホスピタリティアート・プロジェクト顧問

【参加学生】

第7回展ポスター、DM、フライヤー制作

伊藤 真里奈 油画専攻3年

山本 いちご 油画専攻3年

設営

山田 朔也 油画専攻1年

遠矢 実樹 油画専攻1年

山田 美智子 油画専攻2年

秋山 雅貴 油画専攻3年

伊藤 真里奈 油画専攻3年

南 唯乃 油画専攻3年

今江 綾子 油画専攻4年

塚田 華都緋 油画専攻4年

宮野 まりな 油画専攻4年

内田 望美 博士後期課程油画1年

撤収

犬飼 好美 油画専攻2年

伊藤 真里奈 油画専攻3年

塚田 華都緋 油画専攻4年

内田 望美 博士後期課程油画1年

米田 貫雅 博士後期課程油画2年

118

かなざわエコフェスタ 2018

22年前から続けていた使用済みダンボールに再び命を吹き込んだダンボール作品は学内展示だけで終わっていた。

10年前から金沢市からエコに関するイベントで展示させて頂けるようになり金沢市民芸術村で展示していたが、4年前から金沢駅東もてなしドーム地下広場で展示できるようになり金沢市民のみならず新幹線開業も手伝って国内外の方々に見ていただき、エコを考える機会の場になっている。



ダンボール展石引



エコフェスタワークショップ

【委託者】

金沢市地球温暖化対策推進協議会

【期間】

2018年7月—10月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

井手 美月 視覚デザイン1年
 岩崎 菜々子 視覚デザイン1年
 岩田 章之介 視覚デザイン1年
 浦田 朋佳 視覚デザイン1年
 表 千聖 視覚デザイン1年
 親衛 雄行 視覚デザイン1年
 加納 楓花 視覚デザイン1年
 日下部 綾音 視覚デザイン1年
 坂本 あゆみ 視覚デザイン1年
 笹岡 芳成 視覚デザイン1年
 佐藤 柚花 視覚デザイン1年
 澤田 麻由子 視覚デザイン1年
 田嶋 千寛 視覚デザイン1年
 田中 愛子 視覚デザイン1年
 出口 遥菜 視覚デザイン1年
 原嶋 妙英 視覚デザイン1年
 原田 紗矢香 視覚デザイン1年
 細江 美結 視覚デザイン1年
 山根 萌花 視覚デザイン1年
 脇田 彩花 視覚デザイン1年

【開発日程】

2018年

7月3日 ダンボール課題
オリエンテーション
 7月24日 アートベース石引にて
制作開始
 8月2日 プレゼンテーション
 8月3日 石引夏祭りに合わせてアート
ベース石引でプレ展示開始
 8月8日 アートベース石引展示から撤
収、美大に一時保管
 10月20日 金沢駅東もてなしドーム地下
広場に搬入
 10月21日 10:00～16:00
金沢駅東もてなしドーム地下
広場に展示
 撤収 戸室リサイクルプラザ
に移動搬入



エコフェスタ集合

119

ホスピタリティ・ライブラリープロジェクト 図書館で過ごす時間を豊かにする椅子Ⅲ ～金沢海みらい図書館を舞台に考察～



人気投票上位の椅子：左上1位、右上2位、左下3位

【委託者】

金沢海みらい図書館

【期間】

2018年6月～10月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

浮洲 直秀	製品デザイン3年
内海 春佳	製品デザイン3年
乙部 那未	製品デザイン3年
川村 美月	製品デザイン3年
坂上 立朗	製品デザイン3年
重松 将太	製品デザイン3年
高田 えみ	製品デザイン3年
高橋 大生	製品デザイン3年
竹本 頌梧	製品デザイン3年
田中 夢大	製品デザイン3年
中村 有希	製品デザイン3年
長谷川 皓士	製品デザイン3年
濱野 青空	製品デザイン3年
番匠 香純	製品デザイン3年
平田 陸	製品デザイン3年
細川 岳	製品デザイン3年
松本 姫佳	製品デザイン3年
宮島 望	製品デザイン3年
山本 恵	製品デザイン3年
江里口 裕紀	製品デザイン3年

「図書館で過ごす時間を豊かにする椅子」をテーマに金沢海みらい図書館を舞台に、3年目の椅子のデザインに取り組んだ。提案の傾向として大きく3つに分けられた。1つ目は、読書に集中しやすい環境を作り出すために視線や音を遮断することでパブリック空間とプライベート空間の調和を目指した読書環境に着目した椅子。2つ目は、読書しやすい椅子の肘の角度や座面の高さ、揺れたり自由な姿勢で読書を楽しめるなど所作や姿勢に着目した椅子。3つ目は、どんな人がどんな本をどこでどのように読むのかなどの一連の流れを観察し、書架や棚を組み合わせた図書館のシステムやサービスに着目した椅子である。

これらの提案は、椅子の座り心地・形やサイズ・機能や構造・素材や色などの工夫はもちろんではあるが、読書に新しい体験価値をもたらし、図書館で過ごす時間に付加価値を与えてくれると考えられる。

3年間の取り組みで共感性の高い椅子の共通ポイントは「人を思うもてなしの気持ち」である。これらの内容を通して“Hospitality Chairs”の新たなスタイルが生まれる手応えを感じている。



現地視察の様子



中間プレゼンテーションの様子

【開発日程】

2018年

6月7日	オリエンテーション
6月8日	金沢海みらい図書館視察 / 図書館利用者へのアンケート調査
6月18日	中間プレゼンテーション 図書館関係者からアドバイス
7月2日	1/1 プロトタイプ制作開始
8月10日	1/1 プロトタイプ完成
9月22日	公開プレゼンテーション
9月22日～10月9日	現地での展示



制作風景 塗装の様子

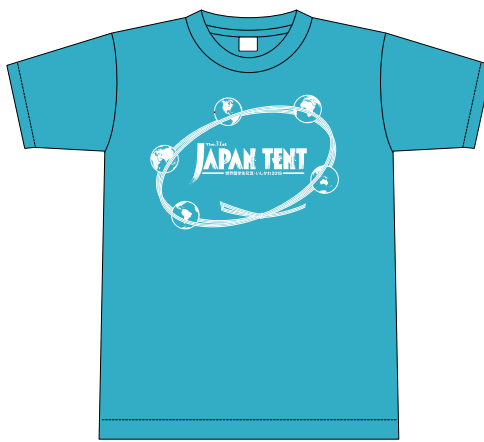


展示の様子

120

JAPAN TENT
Tシャツ・広報物デザイン

留学生用



ホストファミリー用

8月23日から29日まで開催された「第31回記念 JAPAN TENTー世界留学学生交流・いしかわ2018」で、参加者が着用したTシャツ基本デザイン制作を、昨年に引き続きおこない、視覚デザイン専攻2年生竹村さんのデザイン案が採用された。

五大大陸と7つの海から国を超え言葉を超えて集まった若者たちが石川の地でつながる姿を加賀水引をモチーフにデザインされ、「交流」「創造」「連帯」といったジャパンテントの理念にも通じるイメージを重ねてデザインしている。開催中、留学生はオレンジ色、ホストファミリーは水色のTシャツを着て連帯を深めた。



ホストファミリーとの交流



イベントに参加した留学生

[委託者]

株式会社 北国新聞社

[期間]

2018年6月ー9月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]

竹村 美紅 視覚デザイン専攻2年
奥野 凜 視覚デザイン専攻2年
日下部 亜希 視覚デザイン専攻2年
佐藤 菜七星 視覚デザイン専攻2年

[開発日程]

2018年

6月15日 オリエンテーション、デザイン案件検討
7月9日 プレゼンテーション1回目
7月17日 プレゼンテーション2回目
7月30日 最終案決定、その他作業スタート
8月23日 JAPAN TENT 歓迎式典にてTシャツ配布
8月29日 JAPAN TENT さよならセレモニー



採用された竹村さんの掲載記事



デザインに参加した学生

121

犀桜小学校校章デザインと
その活用計画

〔委託者〕

金沢市 教育総務課

〔期間〕

2018 年 11 月 — 2019 年 3 月

〔研究体制〕

プロフェッショナル型

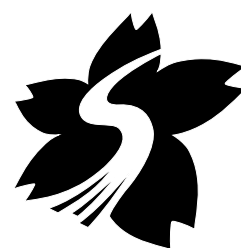
〔担当教員〕

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
(監修)畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻
(監修)

〔共同研究者〕

橋本 謙次郎 デザケン

平成 31 年 4 月に金沢市内の新埦町、菊川町両小学校が統合されて新設される犀桜小学校の校章をデザイン開発した。現在の両小学校の校章や隣接する環境と地域性を参考にしてデザイン展開を制作し、校旗やネームプレート等への活用計画も実施した。また、このプロジェクトは、地域で活躍する本学の卒業生を起用し、プロフェッショナル型で取り組んだ。



モノクロ展開



校旗イメージ

〔開発日程〕

2018 年

10 月 15 日 社会連携会議 金沢市教育
総務課との目的、概要打ち合
わせ

11 月 5 日 学内オリエンテーション

11 月 29 日 学内協議とデザイン案策定プ
レゼンテーション

12 月 14 日 ラフデザイン打ち合わせ

12 月 20 日 デザイン案の校込みと各方面
への調整

2019 年

1 月 最終デザイン活用計画と最終
調整

4 月 小学校開校

 犀桜小学校


122

犀川小学校校章デザインと
その活用計画

【委託者】

金沢市 教育総務課

【期間】

2018 年 11 月 — 2019 年 3 月

【研究体制】

プロフェッショナル型

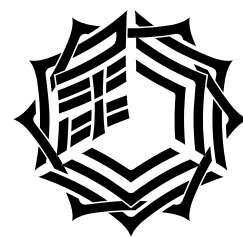
【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
(監修)畠野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻
(監修)

【共同研究者】

西田英一 スキップデザインオフィス

平成 31 年 4 月に金沢市内の犀川・東浅川両小学校が統合されて新設される犀川小学校の校章をデザイン開発した。現在の両小学校の校章や隣接する環境と地域性を参考にしてデザイン展開を制作し、校旗やネームプレート等への活用計画も実施した。また、このプロジェクトは、地域で活躍する本学の卒業生を起用し、プロフェッショナル型で取り組んだ。



モノクロ展開



体育館の縦横の校章



玄関正面につける校章プレート

【開発日程】

2018 年

10 月 15 日 社会連携会議 金沢市教育
総務課との目的、概要打ち合
わせ

11 月 5 日 学内オリエンテーション

11 月 29 日 学内協議とデザイン案策定プ
レゼンテーション

12 月 14 日 ラフデザイン打ち合わせ

12 月 20 日 デザイン案の絞込みと各方面
への調整

2019 年

1 月 最終デザイン活用計画と最終
調整

4 月 小学校開校

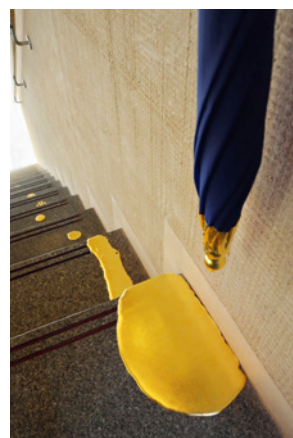
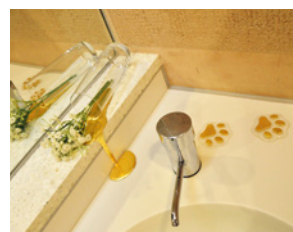


体育館の演台の校章

123

北陸新幹線開業以来、若者から外国人観光客まで幅広い来館者が訪れている。これらの機会を捉え、金沢市立安江金箔工芸館に金箔箔を用いた SNS 写真撮影用のパネル等を設置し、来街者・来館者に写真を通じて金箔箔の魅力を発信してもらうことで、金箔箔の普及・振興に繋げることを目的とする。

金箔箔を用いたパネル等の制作及び SNS による情報発信の提案



【委託者】

金沢箔技術振興研究所

【期間】

2018 年 12 月 — 2019 年 3 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻
(監修)

【参加学生】

中田 里桜 環境デザイン 2 年
西澤 歩 環境デザイン 2 年
伊東 綾乃 環境デザイン 1 年
山田 夏海 環境デザイン 1 年

【開発日程】

2018 年

12 月 10 日 第 1 回スタッフミーティング
(オリエンテーション)

12 月 17 日 第 2 回スタッフミーティング
12 月 20 日 学内にて施工内容確認打ち合わせ

2019 年

1 月 11 日 第 3 回スタッフミーティング
1 月 21 日 ラビッドデザイン現地確認
2 月 18 日 第 4 回スタッフミーティング
2 月 25 日 最終デザイン案確認打ち合わせ
3 月 4 日 金箔試作品確認
3 月 12 日、13 日 現地にて最終デザイン制作
3 月 18 日 高岡製箔様 金箔加工打ち合わせ
3 月 29 日 最終デザイン完成

こども専用相談ダイヤルカードのデザイン



最終デザイン



A案「かけて安心相談カード」



B案「みんなちがってみんないい」



C案「とっておき！お助けカード」

【委託者】
金沢市福祉局 こども総合相談センター
【期間】
2019年2月～3月
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】
山本 莉子 環境デザイン専攻4年

【開発日程】
2018年
12月20日 社会連携会議 金沢市福祉局こども総合相談センターとの目的、概要打ち合わせ
2019年
2月1日 学内オリエンテーション
2月5日 ラフデザイン打ち合わせとデザイン案の絞り込み
2月23日 デザイン案2案の絞り込みと各方面への調整
3月14日 最終デザイン提出

125

社会福祉法人 希望が丘での
陶芸指導および薪窯焼成

希望が丘利用者さんへの陶芸作品制作指導



窯詰めが終わったところ

[委託者]

社会福祉法人 希望が丘

[期間]

2018年4月～10月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

山本 健史 教授 工芸科
池田 晶一 教授 工芸科
宮永 春香 講師 工芸科

[参加学生]

リン スエン 工芸専攻修士2年
胡 羽恬 工芸専攻修士1年
秋山 裕野 工芸科4年
佐々木 渉 工芸科4年
山崎 愛美 工芸科4年
稲村 奈々 工芸科3年
宇都宮 未来 工芸科3年
藤本 有紀 工芸科3年
遠藤 加央里 工芸科2年
岡松 美帆 工芸科2年
竹内 安花梨 工芸科2年
村上 茉優 工芸科2年

[開発日程]

2018年

4月 薪割開始
以降2か月間行う
7月3日、17日 学生による希望が丘利用者さんへの陶芸作品制作指導
8月13日～ 作品制作
9月20日21日 窯詰め
9月26日～29日 窯焚き
10月7日 窯出し



焼成中の窯内部



窯出し作業

希望が丘利用者陶芸班の皆さんへの実技指導を行うとともに、3日間にわたる薪窯焼成を行った。4月以降に燃料となる赤松を適当なサイズに切断し割る作業を本学学生と希望が丘職員の皆さんとが協力して行った。また2日間にわたって作品制作指導を行い、今回の窯焚きで焼成することとした。9月26日正午に火入れし、72時間にわたる焼成を行ったが目立ったトラブルもなく無事に終えることができた。希望が丘職員の皆さんの焼成参加もあり、大変楽しい窯焚きになったことを感謝している。薪窯焼成体験は創作の原点を通過する経験であり、学生それぞれが将来進めていく創作活動への貴重な機会となったはずである。

126

石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」

本展覧会は視覚に障害がある児童生徒の身近な場所に彫刻作品を展示することで、時間をかけてゆっくりと作品を鑑賞する機会を設けることを目的とし、石川県立盲学校の文化祭を挟んだ時期に、本学彫刻専攻の学生の作品を展示するものである。

この展覧会は平成19年度から毎年開催しており、継続的に取り組むことで、視覚に障害がある児童生徒も鑑賞力が向上し、美術に親しむよい機会となっている。最終日には交流会として児童生徒と作者の学生が一堂に会し、作者の作品に込めた思いを聞くことで一層作品に対する理解を深めている。一方、児童生徒からの質問や感想は純粋なものや、日頃の授業での講評などとは観点が異なっているものも多く、学生たちが自身の作品を見直すきっかけにもなっている。また、自身の創作活動と社会との接点を探る機会にもなっており、学生たちに与える教育効果も高い。



【委託者】

石川県立盲学校

【期間】

2018年5月—11月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

【参加学生】

岡田 真由美 彫刻専攻1年
 小田 陽菜乃 彫刻専攻1年
 佐々木 有華 彫刻専攻1年
 石川 日向子 彫刻専攻2年
 笹井 南海 彫刻専攻2年
 多々見 草太 彫刻専攻2年
 塚本 涼子 彫刻専攻2年
 原 圭吾 彫刻専攻3年
 西川 明宜 彫刻専攻4年

【開催日程】

2018年

5月22日 盲学校鋪村校長、大谷教諭
 依頼挨拶および打ち合わせ
 8月6日 日程調整
 10月2日 彫刻専攻学内展にて
 作品候補リストアップ
 10月17日 展示作品決定 出品者に解
 説文の作成を依頼
 10月23日 作品搬入・展示
 10月24日～11月7日
 作品展示
 11月7日 美大生と児童生徒の交流会
 11月20日 礼状および感想文受領



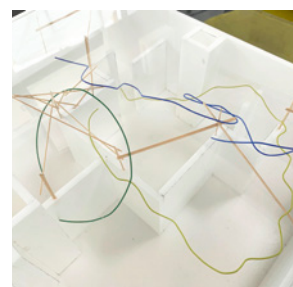
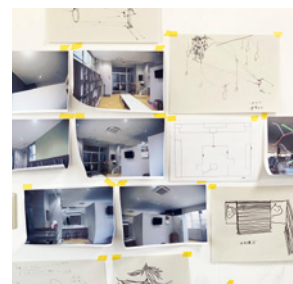
127

外国人旅行者銭湯体験推進事業

本事業は外国人旅行者の金沢市内の銭湯利用を促す目的で施設内に芸術作品を展示するものである。本学は金沢市誘客推進室の依頼により金沢市内の銭湯施設「大和温泉」の待合室・脱衣所に実績のある芸術家による作品制作と展示を実施した。本事業以前にも銭湯を利用した芸術作品の展示や催しは全国的に実施されてきた。依頼者からは事業趣旨に照らして作成された基本計画が示され、金沢美術工芸大学はその意図に沿ってインスタレーション作家による作品展示を企画した。

依頼した武田雄介氏は金沢美術工芸大学大学院博士後期課程で学位を取得し満期退学後に金沢 21 世紀美術館での個展を成功させるなど国内外で活躍している。

本事業では銭湯の待合室・脱衣所の天井から頭上にかけての空間に立体的で有機的な光の曲線を描く作品をネオン管を用いて制作した。



【委託者】

金沢市 誘客推進室

【期間】

2018 年 5 月 - 2019 年 3 月

【研究体制】

プロフェッショナル型

【担当教員】

鈴木 浩之 准教授 美術科油画専攻

【参加者】

武田 雄介 作家

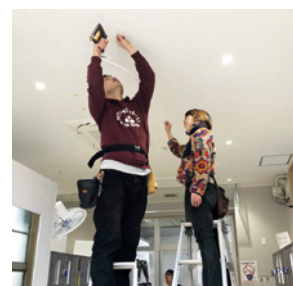
【開発日程】

2018 年

- 5 月 9 日 銭湯施設内への絵画作品の制作と展示に関する依頼内容の説明
- 6 月 17 日 制作に関する素材リサーチ（金沢ペーパーショー）
- 6 月 22 日 委託者への企画提案
- 7 月 4 日 関係者に展示施設決定
- 7 月 30 日 現地打ち合わせ（大和温泉）
- 8 月 6 日 打ち合わせ
- 8 月 17 日 打ち合わせ
委託者の希望により企画案変更
- 8 月 17 日 武田氏との打ち合わせ
- 9 月 27 日 現地打ち合わせ（大和温泉）
- 10 月 14 日 作家による作品ドラフト提案

2019 年

- 1 月 6 日 改装工事後の現地調査（大和温泉）
- 2 月 4 日 作家による作品設計案の提出
- 3 月 作品展示～完成



作品の展示風景



作品の展示風景

114 >> 121

114	これからのエンターテイメント 授業の枠組みから捉え直したプロジェクト	28
115	スズキの〇〇があるからできるこんなこと	29
116	真空成形の技術を使った 新たなユニバーサルデザイン容器の研究	30
117	新しい紙コミュニケーションツールのデザイン開発	31
118	クラスコ共同事業 金沢市内のホテル・リノベーションにおける 客室と共用部のデザイン	32
119	卒業制作作品 「施設向け歩行車 Snuggle」の製品化(2年目)	33
120	新しい価値を持ったメガネフレームのデザイン研究 美大メガネ部活動としての連携事業	34
121	ハロウィンカーニバルに関する イベントデザイン研究	35

114

製品デザイン専攻3年生16名が家電の授業で「これからのエンターテインメント」のサービス＆商品開発を行った。プロジェクトの成果発表を六本木にあるAXISギャラリーにて展示を行った。授業では、4つのグループに分かれて、それぞれにプロのデザイナー（倉本仁、鈴木啓太、北川大輔、上町達也）がメンターとして加わり授業を進めた。展示ではこれまでとこれからのエンターテインメントについての分析と予測も発表された。

これからのエンターテインメント 授業の枠組みから捉え直したプロジェクト



AXISにて展示



倉本仁事務所にてデザインチェックを行う



中間チェックで鈴木啓太氏にプレゼンテーションする学生

【委託者】	
スカパー JSAT 株式会社	
【期間】	
2018年4月～6月	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
河崎 圭吾 教授 デザイン科製品デザイン専攻	

【参加学生】	
浮洲 直秀	製品デザイン専攻3年生
乙部 那未	製品デザイン専攻3年生
細川 岳	製品デザイン専攻3年生
坂上 立朗	製品デザイン専攻3年生
山本 恵	製品デザイン専攻3年生
松本 姫佳	製品デザイン専攻3年生
川村 美月	製品デザイン専攻3年生
竹本 頌梧	製品デザイン専攻3年生
中村 有希	製品デザイン専攻3年生
長谷川 皓士	製品デザイン専攻3年生
田中 夢大	製品デザイン専攻3年生
番匠 香純	製品デザイン専攻3年生
濱野 青空	製品デザイン専攻3年生
高橋 大生	製品デザイン専攻3年生
高田 えみ	製品デザイン専攻3年生
江里口 裕紀	研究生

【開発日程】	
2018年	
4月1日	これからのエンターテインメントについて論文制作（宿題）
4月12日	オリエンテーション （途中は各メンターさんのスケジュールに合わせる）
5月25日	各メンターさんの事務所にて中間チェック
6月6日	最終プレゼンテーション
11月9日～11日	AXISにて展示



本学での最終プレゼンテーションの様子



本学での最終プレゼンテーションの様子

115

スズキの〇〇があるからできるこんなこと

自動運転、コネクティッド、といった新しい技術が具現化し、交通システムや社会環境までを含んだ新たなインフラやサービスとそれを実装させる商品提案が必要となっている。この産学連携企画ではユーザー側からの視点で「本当にうれしいことは何か」を考え、将来スズキが提供するべき新しい体験価値や生活を豊かにするモビリティデザインを研究する。

製品デザイン専攻からは、自動運転のモビリティ、美術館の電動車椅子、子供のための除雪機器、電動ローラーシューズなどが提案された。また環境デザイン専攻からは、陸上電動ウインドサーフィン、女性のメイクのための変身モビリティ、レンタルアウトドアモビリティ、子育て家族のモビリティ、ディーラーのVR体験が出来るショールームまで、それぞれ専門分野を活かした幅広い提案となった。



完成したスズキ報告書



スズキ歴史館見学



アイデア検討会



ラフモデル検討会

【委託者】

スズキ株式会社

【期間】

2018年4月—2019年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

内海 春佳 製品デザイン専攻3年
重松 将太 製品デザイン専攻3年
長谷川 皓士 製品デザイン専攻3年
番匠 香純 製品デザイン専攻3年
平田 陸 製品デザイン専攻3年
宮島 望 製品デザイン専攻3年
神林 優志 環境デザイン専攻3年
成川 就一 環境デザイン専攻3年
日高 史央里 環境デザイン専攻3年
山口 日南乃 環境デザイン専攻3年
頼安 礼市 環境デザイン専攻3年

【開発日程】

2018年

4月9日 スズキ歴史館見学
キックオフオリエンテーション
4月20日 コンセプトアイデア発表
(Web会議)
5月11日 定例ミーティング
コンセプト選考
6月1日 コンセプト決定(Web会議)
6月15日 定例ミーティング
デザインアイデア発表
6月29日 デザインFIX(Web会議)
7月20日 定例ミーティング
ラフモデル検討
8月10日 定例ミーティング
中間チェック
9月28日 モデル完・プレゼンパネル案
10月5日 プレゼンデータ確認
(Web会議)
10月26日 最終プレゼンテーション

2019年

3月 報告書制作

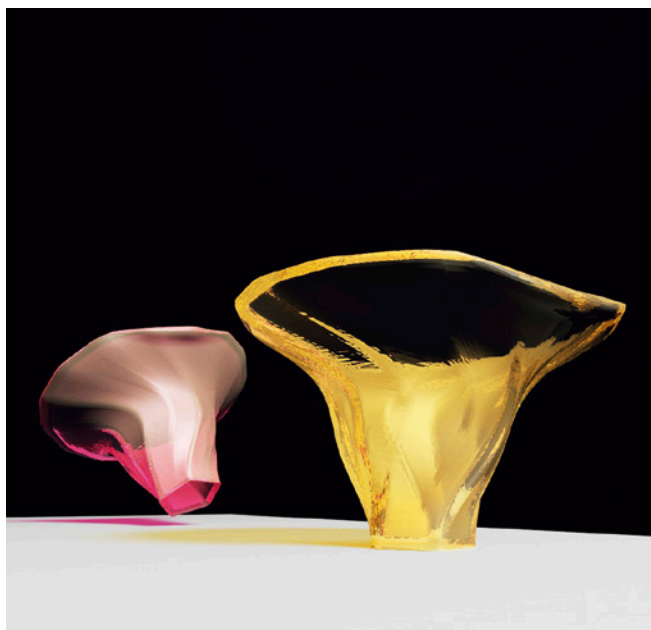


プレゼンパネル確認



最終プレゼンテーション

116

真空成形の技術を使った
新たなユニバーサルデザイン容器の研究

【委託者】

馬場化学工業株式会社

【期間】

2018 年 4 月 — 2019 年 3 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

木下 侑樹 環境デザイン専攻 2 年
高田 陸央 環境デザイン専攻 2 年

【開発日程】

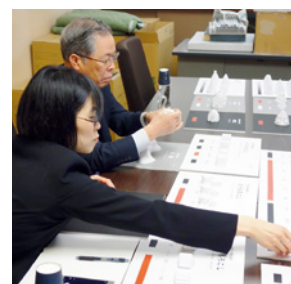
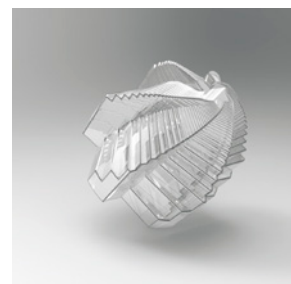
2018 年

- 4 月 3 日 新社屋訪問 本年度の事前打ち合わせ
オリエンテーション
- 5 月 13 日 金沢西病院で開催された UD ワークショップに参加
- 7 月 7 日 市販のゼリー容器にて「開けやすい」、「握みやすい」を理解する調査 1
- 8 月 10 日 市販のゼリー容器にて「開けやすい」、「握みやすい」を理解する調査 2
- 10 月 5 日 3D データ作成ソフトにてデータ試作
- 10 月 10 日 3D プリンターで出力調整
- 11 月 16 日 モデル制作
- 11 月 29 日 モデル制作
- 12 月 25 日 中間発表

2019 年

- 2 月 22 日 容器形状検討
- 2 月 25 日 容器形状検討
- 3 月 4 日 モデル再考
- 3 月 20 日 最終プレゼンテーション

生活者視点を優先し、市場調査 / UD 体験などを通して、より多くの人に使いやすく心地よいパッケージの具体的な表現を創造することを目的とする。今後、市場に展開できブランド価値の向上に貢献する商品として、量産も視野に入れた精度の高いモデルを制作する。



117

新しい紙コミュニケーションツールの
デザイン開発

株式会社山越の販売展開しているペラブルシリーズは数多くの商品をそろえている。その一群としてまとまりを出すキーワードを含めたツールの創造を目的とする。今回テーマは、「宇宙の旅」。宇宙をテーマとした紙文具として、メモパッドやふせん、ポストカード、グリーティングカードなどのデザインを行う。今後、ステーションナリー、雑貨店にて店頭販売できる商品化を視野に入れ制作する。

このプロジェクトに、製品デザイン専攻4年の16名が参加した。アイデア展開からモックアップの制作を行いプレゼンテーションの結果、5案のアイデアが選考され、商品化検討されることになった。



オリエンテーション



アイデアプレゼンテーション

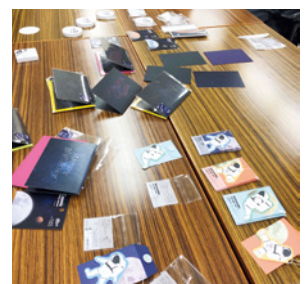
[委託者]	
株式会社 山越	
[期間]	
2018年6月—2019年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
浅野 隆 教授	デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]		
大橋 康平	製品デザイン専攻4年	
小島 弘嵩	製品デザイン専攻4年	
都筑 亮志	製品デザイン専攻4年	
當宮 楽捺	製品デザイン専攻4年	
西村 正之	製品デザイン専攻4年	
橋川 裕貴	製品デザイン専攻4年	
林 恒太郎	製品デザイン専攻4年	
福田 理紗	製品デザイン専攻4年	
藤川 敏生	製品デザイン専攻4年	
北條 英	製品デザイン専攻4年	
堀 美末湖	製品デザイン専攻4年	
松村 圭介	製品デザイン専攻4年	
森 琴音	製品デザイン専攻4年	
山村 有史	製品デザイン専攻4年	
吉戸 妙織	製品デザイン専攻4年	

[開発日程]	
2018年	
6月7日	オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明
6月18日	アイデアプレゼンテーション
6月22日	ブラッシュアップアイデア 提出
6月26日	最終選考案5案決定
7月17日	デザインブラッシュアップ、 図面データ提出
8月9日	商品化に向けた検討会
2019年	
3月4日	試作品完成
6月頃	販売開始予定



商品化検討会



試作品完成

118

クラスコ共同事業 金沢市内のホテル・リノベーションにおける 客室と共用部のデザイン



食堂

【委託者】	
株式会社クラスコ	
【期間】	
2018年4月—2019年9月	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
坂本 英之 教授	デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】	
森 晴香	環境デザイン専攻 4年
長谷川 晶子	環境デザイン専攻 4年
地金 育美	環境デザイン専攻 3年
徳田 好美	環境デザイン専攻 3年
原山 涼奏	環境デザイン専攻 3年
足立 百花	環境デザイン専攻 2年
西澤 歩	環境デザイン専攻 2年
飯山 春風	環境デザイン専攻 2年
河野 里咲	環境デザイン専攻 2年
中田 里桜	環境デザイン専攻 2年
通山 ひなの	環境デザイン専攻 2年
牧野 利香	環境デザイン専攻 2年

株式会社クラスコと共に、金沢市内のホテルのリノベーションにおける客室と共用部のデザインを行った。JR 金沢駅東口周辺に位置する休眠状態のホテルを新しく「crasco tabine」として開業するにあたり、新鮮で研ぎ澄まされた感性から生まれる発想による提案が期待された。

金沢らしいホテルにリノベーションするに際して、金沢を歴史や文化、気候風土などの自然環境等の様々な目線で捉え、インバウンドをはじめとする宿泊客に、このような金沢の個性を伝え、快適な滞在時間を提供するための空間をデザインした。

学生達は現場での施工にも一部参加して、空間のデザインが実際の形になるプロセスを踏むことができた。それらの提案が実寸で仕上がる経験を通じて、空間をデザインする醍醐味を味わう貴重な体験を積むことができたと共に、実際の稼働期間に入り、機能性や快適性において得られるフィードバックなども今後に求められている教育効果である。

また、これら一連のプロセスは、マスコミによる報道番組として複数回に分けてテレビで放映されるなど、様々な反響を得ることができた。

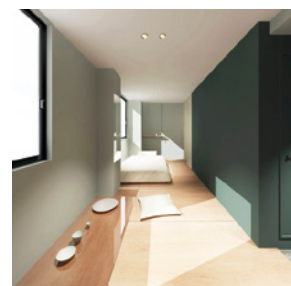


ミーティング

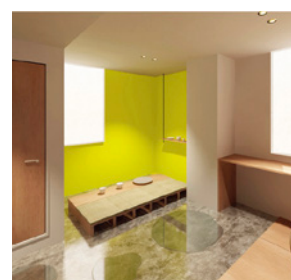


現地視察

【開発日程】	
2018年	
4月28日	現場調査及び打ち合わせ
5月12日	企画会議
5月22日	企画会議
5月下旬	宿泊室デザイン完成
6月4日	企画会議
6月中旬	共用部デザイン完成
8月10日、24日	現地ワークショップ



客室 1



客室 2

119

卒業制作作品 「施設向け歩行車 Snuggle」の製品化 (2 年目)



「Snuggle 施設向け歩行車」最終モデル

【委託者】

スギモト産業株式会社

【期間】

2017 年 8 月 — 2019 年 3 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻

このプロジェクトは 2016 年度製品デザイン専攻卒業生の馬場葉摘さんの卒業制作を金沢市の助成金を得て、スギモト産業株式会社、金沢大学医薬保健研究域と共に製品化を目指すものである。

近年、医療現場（病院等）のデザインは白やグレーの衛生施設然とした味気ないものから、人々が心地よく過ごせるリビングルームのようなインテリア設計がトレンドとなっている。しかし、そこで使用されている器具は旧来のままの武骨なデザインで現場から浮いた存在となっており、この歩行車は、そのような違和感と以下の問題を解決するものである。

- ・ 椅子から立ち上がり歩行車へ移る動作が考慮されていない
- ・ 高さ調整に手間がかかる
- ・ 収納する際に場所を取る
- ・ 利用者、補助者への配慮に欠けている

最終年度である今年度は、昨年度の臨床テストの結果を反映した製品としての理想形を具現化し、最終テストによってその実効性を検証し、製品ゴールを形にした。



モダンな近年の病院のインテリアに違和感のないデザイン



立ち上がり時の不安定さを回避するハンドル形状が特徴



ガス式の上下機構



立ち上がり時に荷重でブレーキがかかるキャスター

【開発日程】

2018 年 (2 年目)

- 6 月 4 日 設計会議・最終設計開始
- 7 月 5 日 知財専門家会議
- 7 月 9 日、17 日 キャスターメーカー設計打ち合わせ
- 9 月 10 日 設計会議・モデル製作開始
- 11 月 14 日 工業所有権出願
- 11 月 15 日 モデル完成・発表
- 12 月 7 日 プロジェクト会議・オプション設計開始
- 12 月 20 日 オプション設計会議・臨床試験打ち合わせ

2019 年

- 2 月 15 日 金沢赤十字病院にて最終試作による臨床試験
- 3 月 4 日 知財会議
- 3 月 27 日 最終成果報告

120

新しい価値を持った メガネフレームのデザイン研究 美大メガネ部活動としての連携事業



IOFT 展示 (東京ビックサイト)

[委託者]

一般社団法人 福井県眼鏡協会

[期間]

2018年5月—2019年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

メガネ部部長:

高田 えみ

メガネ部副部長:

松本 姫佳

[KAWAII]

リーダー: 乙部 那未 製品デザイン専攻 3年

メンバー: 宮嶋 望 製品デザイン専攻 3年

江里口 裕紀 製品デザイン専攻 3年

中園 悠佳 製品デザイン専攻 2年

坂田 七海 製品デザイン専攻 1年

塚 竜之輔 製品デザイン専攻 1年

藤井 香葉子 製品デザイン専攻 1年

森岡 さくら 製品デザイン専攻 1年

サポーター: 大石 まなみ 製品デザイン専攻 4年

西村 正之 製品デザイン専攻 4年

[COOL]

リーダー: 長谷川 皓士 製品デザイン専攻 3年

メンバー: 後藤 はなこ 製品デザイン専攻 3年

重松 将太 製品デザイン専攻 3年

富田 文香 製品デザイン専攻 2年

近藤 桃子 製品デザイン専攻 1年

関根 理人 製品デザイン専攻 1年

高瀬 睦 製品デザイン専攻 1年

サポーター: 吉戸 妙織 製品デザイン専攻 4年

松村 圭介 製品デザイン専攻 4年

[CLASSIC]

リーダー: 高田 えみ 製品デザイン専攻 3年

メンバー: 平田 陸 製品デザイン専攻 3年

山本 恵 製品デザイン専攻 3年

澤本 泉美 製品デザイン専攻 2年

達彦 達彦 製品デザイン専攻 2年

黒田 絢子 製品デザイン専攻 1年

古路 萌絵 製品デザイン専攻 1年

サポーター: 福田 理紗 製品デザイン専攻 4年

都筑 亮志 製品デザイン専攻 4年

[DYNAMIC]

リーダー: 松本 姫佳 製品デザイン専攻 3年

メンバー: 竹本 頌悟 製品デザイン専攻 3年

番匠 香澄 製品デザイン専攻 3年

松島 望 工芸科 2年

上山 夏樹 製品デザイン専攻 2年

坂本 ゆりの 製品デザイン専攻 1年

諸井 千倅 製品デザイン専攻 1年

福井県眼鏡協会との産学連携は今年で17年目。他大学では類を見ない学生主体の「メガネ部」部活動としての受け入れ体制で情報の引き継ぎによりノウハウの蓄積があり、上級生から下級生への専門的なデザイン技術指導もしっかり整えられており、年々研究が深まっている。

本年度テーマを「自分のかけたいメガネ・あの人にかけてほしいメガネ」と定め、1年生から4年生の混合4チームで取り組んだ。チームは、「KAWAII」「Cool」「Classic」「Dynamic」でそれぞれのキーワードから新しいコンセプトのアイデアを検討した。39名の学生がメガネ部活動に参加した。アイデアをブラッシュアップを重ね、3D表現と、モデル制作で検証し最終プレゼンテーションでは28案の提案を行った。

また、昨年度の提案の中から5案のフレームと1案のプロダクトアイテムが商品化されたことで、この社会連携活動が大学の英知を活かした産地活性化への貢献となったことが広く報道された。



商品化報告会 (テレビ・新聞取材)

工場見学 (竹内光学工業・サンオブチカル)
会社見学 (ポストクラブ)

商品化報告会 (テレビ・新聞取材)



産地デザイナーとの意見交換

田嶋 千寛 視覚デザイン専攻 1年
サポーター: 藤川 紘生 製品デザイン専攻 4年
森 琴音 製品デザイン専攻 4年

[開発日程]

2018年

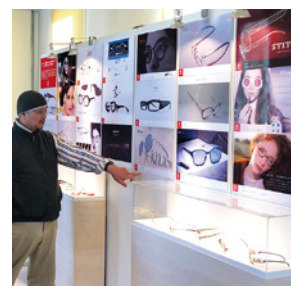
5月～ イメージボード
ブレインストーミング
7月6日 学内アイデア中間発表
8月8日 工場見学
アイデア選考
産地デザイナーとの意見交換
8月9日 デザインブラッシュアップ
モデル制作
9月21日 最終プレゼンテーション
10月22日～24日 IOFT展示・視察
11月3日～5日 美大祭展示

2019年

2月15日 商品化報告会



最終プレゼンテーション



美大祭展示

121

ハロウィンカーニバルに関する
イベントデザイン研究

開館3周年を迎えた三井アウトレットパーク北陸小矢部のさらなる発展を目指し、学生チームにより斬新なコンセプトでハロウィンイベントの館内装飾とインスタウォールを企画デザインする。また、イベントに合わせ子供たちに向けたワークショップを開催することにより、地域の来場者と交流を深め、北陸のアウトレットブランドとしての価値を高め、集客につなげる。



[委託者]

株式会社アイワット

[期間]

2018年8月—10月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

藤原 なつき 環境デザイン専攻3年
山本 葉央 環境デザイン専攻3年
木下 侑樹 環境デザイン専攻2年
通山 ひなの 環境デザイン専攻2年
山口 真祐美 環境デザイン専攻1年
山野 一真 環境デザイン専攻1年
山田 夏海 環境デザイン専攻1年

[開発日程]

2018年

7月19日 事前概要確認打ち合わせ
8月1日 オリエンテーション
8月5日 ラフアイデア作成
8月15日 デザイン3案
プレゼンテーション
9月4日 ハロウィン フォトパネル
最終デザイン提出
10月1日 ハロウィン フォトパネル設置
10月20日、21日
現地ワークショップ
10月27日、28日
現地ワークショップ



B03 >> G03

B03	問屋まちスタジオ 問曜日プロジェクト	37
E03	地元企業との就職情報交換会	38
G03	志賀町・絵画塾 ～美術教育による地域連携～	39

B03

問屋まちスタジオ
問曜日プロジェクト

金沢美術工芸大学と協同組合金沢問屋センターが街づくりに関する協定を結び2010年から始動した「問屋まちスタジオ」を拠点に、2018年から新たに開始された「問曜日プロジェクト」。日替わり・曜日担当制で、金沢市内で活躍する作家（本学OB、OG）が制作・発表を行った。

スタジオで滞在制作する作家との交流、作家たちの個性を活かした企画展示やワークショップ、国内外の作家によるアーティスト・イン・レジデンス、建築空間に作品を制作するコミッション・ワークが日常的に行われる状況が生まれた。さらにスタジオに寄せられる各方面からの要望に応えるための受け皿となる「アートファクトリー」部門が整えられて、その管理・運営を担当する体制づくりが進められている。

二年間に亘る「問曜日プロジェクト」の検証から見えてきた研究成果を、今後の「問屋まちスタジオ」での大学・企業・作家・地域との連携による研究やプロジェクトに活かし、地域社会の文化資本の醸成に積極的に関わり、その基盤の上に新規の文化事業が生まれ、若者定着の促進やアートによる国際化を伴った地方創生の一翼が担えることをめざす。



金沢美大出身者5人による展覧会「とりあえずそこに行くとして、」



夏休みこどもワークショップ
「問屋まちすいぞくかん」



アーティスト・イン・レジデンス
「Eom Jeongwon」

[委託者]

問屋まちスタジオ運営協議会

[会期]

2018年4月—2019年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻
真鍋 淳朗 教授 美術科油画専攻
中瀬 康志 教授 美術科彫刻専攻

[参加作家]

今尾 拓真 作家・本学実習助手
門阪 翔太 作家・本学OB・本学教務助手
菊谷 達史 作家・本学OB・本学実習助手
佐直 麻里子 作家・本学OG
武田 雄介 作家・本学OB
村住 知也 作家・本学OB

[展示日程]

2018年

4月～2019年3月の月曜日～土曜日
作家が在廊
(水曜日、日曜日は休廊)

8月18日

夏休みこどもワークショップ
「問屋まちすいぞくかん」

10月31日～11月6日

アーティスト・イン・レジデンス
「Eom Jeongwon」

11月30日 音楽＋舞踊公演「金沢実験室」

12月2日 海外の作家による「工作ワークショップ」

12月14日～23日

アーティスト・イン・レジデンス
「齋藤功美」

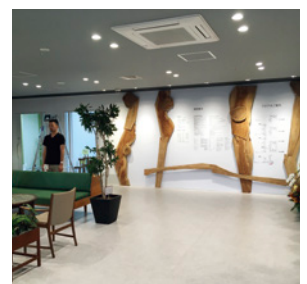
2019年

2月22日～3月10日

金沢美大出身者5人による
展覧会「とりあえずそこに行くとして、」



海外の作家による「工作ワークショップ」



コミッション・ワーク「岡部病院プロジェクト」

E03

金沢市と学生の若者定着の促進等を目的とする連携協定を具体化するため、将来の就職を見据えた意見交換を行う場として、地元企業との就職情報交換会を開催し、就職活動報告会では、地元企業に勤める美大OBから就職活動や現在の仕事のやりがい、地元で就職を決めた理由などを披露した。

また、交換会を契機に、関心の高い企業の理解を一層深める場として、参加いただいた企業に、1DAYインターンシップを実施していただいた。

地元企業との就職情報交換会



[連携先]

金沢市役所

[期間]

2018年7月8日
金沢東急ホテル

2019年2月2日
金沢東急ホテル

[担当教員]

キャリア支援室長

石田 陽介 教授

キャリア支援室担当

よしだ ぎょうこ 准教授 美術科日本画専攻

高橋 治希 准教授 美術科油画専攻

芝山 昌也 准教授 美術科彫刻専攻

水野 さや 准教授 美術科芸術学専攻

鈴木 康雄 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

足立 真実 准教授 工芸科

平塚 聖子 准教授 大学院デザイン科
ファッションデザインコース

[7月8日参加企業]

金沢機工(株)

株クラスコデザインスタジオ

株グランゼーラ

株五井建築研究所

小松精練(株)

株シービーユー

伸晃化学(株)

泰和ゴム興業(株)

高桑美術印刷(株)

株玉家建設

株橋本清文堂

北陸火工(株)

三谷産業(株)

株森八

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学

金沢市役所

[2月2日参加企業]

株アイ・オー・データ機器

株イメージ

株イーブ

株オートメ技研

株カラフルカンパニー

クレスコ北陸(株)

株グランゼーラ

株シービーユー

伸晃化学(株)

高桑美術印刷(株)

株田島

株玉家建設

株テキスタイルデポ

ニッコー(株)

北陸火工(株)

三谷産業(株)

株森八

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学

金沢市役所



G03

志賀町・絵画塾 ～美術教育による地域連携～

「絵画塾」は金沢美術工芸大学の教員・学生が志賀高校を会場として中・高校生に絵画指導を行うもので、志賀高校の活性化と地域へのアピールを目的として企画された。平成26年に始まったこの中高大の連携事業は、一昨年度「志賀町との連携に関する協定」の一環として位置付けられ、現在に至っている。

今年度もこれまでと同様6月から11月まで月1回（土曜日）、計6回実施した。参加者は回によって異なるが、おおよそ20名程度で、例年通りの状況である。参加者の強い意欲に応えるため美大ならではの専門性を織り込みながらも、あくまでも分かりやすい課題設定を心掛けた。指導には各回2名の美大生が当たり、前半4回を油画、後半2回を日本画が担当し、その親しみのある丁寧な対応は毎回好評であった。また学生自身も、美術や教育について改めて感じるが多かったようである。

例年ある程度固定されたプログラムで実施しているが、毎年続けて受講してくれる生徒が多いため、適宜内容の精選と改善に努めている。



第4回「水彩イメージ画」制作風景



第1回「平面に描く立体パズル」



第2回「水彩写生」制作風景

【委託者】

志賀町教育委員会

【期間】

2018年6月—11月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

大森 啓 教授 美術科油画専攻
佐藤 俊介 教授 美術科日本画専攻

【参加学生】

伊藤 真里奈 美術科油画専攻3年
富崎 美結 美術科油画専攻4年
定村 瑠子 修士課程絵画専攻油画コース1年
坪井 一 修士課程絵画専攻油画コース1年
橋本 充智 修士課程絵画専攻油画コース1年
星原 健人 修士課程絵画専攻油画コース1年
米田 貴雅 博士後期課程美術工芸専攻2年
戸田 伸英 修士課程絵画専攻日本画コース1年
中田日菜子 修士課程絵画専攻日本画コース1年
北川由紀恵 日本画非常勤実習助手

【実施日程】

2018年

- 6月23日 第1回「平面に描く立体パズル」
投影図法の立方体を切り抜き、立体描写の基礎と絵画の不思議さを体験する
- 7月22日 第2回「水彩写生」
鉛筆・コピック・水彩を用いて、形・明暗・色を分けて捉える考え方を学ぶ
- 8月7日 第3回「木炭デッサン」＋美大見学
石膏像の描写を通して、形のポイントを押さえる方法を学ぶ
- 9月23日 第4回「水彩イメージ画」
写生した花の形を借りて、偶然できた色の美しさを利用する
- 10月20日 第5回「煮干しの細密描写」
鉛筆と水彩を用いて、日本画の基本である対象の観察描写を学ぶ
- 11月10日 第6回「写生と墨による表現」
野菜を写生し、墨を用いた付け立て表現の可能性を探る



第3回「木炭デッサン」制作風景



第4回「水彩イメージ画」

[2018 年度 社会連携センター会議]

社会連携担当理事 ———— 石田 陽介
社会連携センター長

事務局次長 ————— 布島 宏胤

地域連携部門

部門長 ————— 池田 晶一
芝山 昌也
中西 由真（事務局）

産学連携部門

部門長 ————— 畝野 裕司
加賀城 健
宇於崎 竜介（事務局）

知財管理部門

部門長 ————— 安島 諭
鈴木 浩之
加藤 謙一（事務局）

特任研究員 ————— 野村 昌史

[報告書制作]

編集・アートディレクション — 野村 昌史

編集協力・版下製作 ———— 株式会社 斉藤慶デザイン研究所

印刷 ————— 株式会社 山田写真製版所

発行 ————— 公立大学法人 金沢美術工芸大学
〒920-8656
石川県金沢市小立野 5 丁目 11 番 1 号
TEL 076-262-3531
FAX 076-262-6594
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

発行日 ————— 2019 年 6 月